

令和5年度第5回原子力発電所安全確保技術検討会 現地調査の結果について

福島第一原子力発電所において、令和5年度第5回安全確保技術検討会による現地調査を実施しましたので、下記のとおり結果をお知らせします。

記

1 日時

令和5年8月24日(木) 12:10～15:25

2 調査箇所

A L P S 処理水希釈放出設備

- (1) 海水移送ポンプ、取水放射線モニタ
- (2) A L P S 処理水移送ポンプ、同ポンプ出口放射線モニタ
- (3) 海水配管ヘッダ（海水とA L P S 処理水の混合希釈）
- (4) 希釈後処理水サンプリング設備
- (5) 放水立坑（上流水槽）放射線モニタ
- (6) 放水立坑（下流水槽）

3 出席者

(1) 技術検討会の構成員等

- ・関係市町村 担当課長等：
いわき市、南相馬市、広野町、楡葉町、富岡町、大熊町、双葉町、浪江町
- ・福島県：原子力安全対策課長、放射線監視室長

(2) 対応者

- ・東京電力：A L P S 処理水対策責任者 松本純一室長 他

4 調査目的

A L P S 処理水の海洋放出の開始にあたり、A L P S 処理水希釈放出設備等の運用状況を確認するとともに、事前了解時に取りまとめた8つの要求事項に関する東京電力の対応状況を確認する。

5 調査結果

8月22日に上流水槽からサンプリングした希釈後のA L P S 処理水のトリチウム濃度の分析結果が計画の基準1500Bq/Lを下回り、想定通りに希釈できていることが確認されたことから、本日13時03分から海水移送ポンプ（A）を起動させ、処理水の海洋放出が開始された。

(1) 放水立坑（上流水槽、下流水槽）

希釈されたA L P S 処理水が13時13分に上流水槽の下流側の堰を越流し、下流水槽（放水トンネル）に流れたことを確認。下流水槽の水位の上昇は見られず、水槽からの溢水がないことを確認。

(2) ALPS処理水移送ポンプ、海水移送ポンプ

測定・確認用設備に貯留されているALPS処理水を移送するためのポンプ及び希釈用海水を移送するためのポンプを確認。東京電力より設備の維持管理するために実施する日々の点検内容等について説明を受けた。

13時23分に海水移送ポンプ（B）を起動させ、定常流量となったことから、処理水移送ポンプを14時16分に起動させ、17日間の連続放出に移行した。

(3) 取水放射線モニタ、上流水槽放射線モニタ（事前了解時の要求事項の一つ）

希釈用海水とALPS処理水の放射能レベル（水中のガンマ線量率）を連続的に測定するためのモニタの設置状況を確認。



上流水槽モニタの確認状況



ALPS処理水移送ポンプの確認状況

6 議長まとめ

ALPS処理水の海洋放出は、社会的に関心が高い作業であるため、東京電力においては安全最優先で取り組んでいただくとともに、関連するデータを分かりやすく公表することが重要である。

また、作業においてスケジュールありきではなく、いつもと違う、おかしいと感じた際は、一度立ち止まり、安全を再確認するなど、慎重に進めていただきたい。

さらに、県民の関心が高いのは、海洋放出が開始されてタンクが本当に減っていくのか、汚染水の発生量が減っていくのかといった点であることから、今後、丁寧な情報発信をお願いします。